第２学年２組　外国語科学習指導案

授業者：黒瀬　野々花

単元名：「Program 6　High-Tech Nature」（本時： 7 /11 時間）

【生成 AI の活用】

① **生徒の課題解決の意欲を高めることを目的とした本時の学習課題の内容の検討(chatGPT の活用)**

Q：中学２年の比較表現を扱う単元で、生徒が目的意識をもって「やってみたい」と思えるような、学習課題を設定したい。
また「話し合い活動の充実」につながるよう、班で話し合わなければ最適な答えを導き出すことが難しい課題にしたい。

A： 生徒が具体的な目的や相手を意識して課題に取り組めるよう、「ALT と 15 歳の娘が、京都を観光する」という場面を設定することを提案する。複数の観光地についての情報を調べ、それらを比較・検討しながら、班で最も適した場所を考えその場所を紹介する英作文を書くことを課題とする。また、AI が一つの正解を示すのではなく、複数の情報を提供することで、生徒一人一人が自分の考えをもち、それを班で共有・比較しながら、根拠をもって班としての答えを決定することができるようにする。

② **本時の学習課題解決の手だてとして利用できる Gem の作成（Gemini の Gem 機能の活用）**

生徒が自ら考えて英文を表現する力を育成するため、和英辞典機能と採点機能を備えた Gem を作成した。

・語彙、表現検索機能：生徒が自ら考えて英文を表現できるように、数語程度の単語や表現のみを検索できる「和英辞典機能を備えた Gem」を活用させる。

・アドバイス、評価機能：生徒が作成した紹介文に対し、Gem が文法や語彙の誤り、内容をよりよくすることができるように、ヒントやアドバイスを提示する「採点 Gem」を活用させ、生徒はその助言をもとに紹介文を見直し、修正・改善できるようにする。

【単元計画】　（全 11 時間、本時： 7 時間目）

	時数	学習活動・内容
導入	1	単元を貫く学習課題「ALT への京都紹介」を確認し、紹介に必要な情報を調べる。
展開	2	・比較級、最上級などの比較表現の意味や用法を学習する。 ・条件に応じた比較表現を用いた英作文の練習を行う。
	3	・比較表現が含まれた長文読解を行い、比較表現の使い方を理解する。 ・京都の魅力を伝える紹介文の原稿づくりをする。
	1	作成した紹介文を用いて、班での相互評価や AI のアドバイスをもとに修正・改善を行う。
	2	・京都を紹介するプレゼンテーションの構成や原稿を完成させる。 ・班で発表練習と相互評価を行う。
	1	プレゼンテーションを提示し、ALT に京都の魅力を紹介したり、質問に答えたりする。
終末	1	単元を貫く学習課題の振り返りを行い、単元全体のまとめと自己評価を行う。

【本時案】

単元目標		
知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
比較表現の意味や用法を理解し、京都の特色を表す語句や表現を用いて、相手に伝わる英文を書いたり、話したりする技能を身に付けることができる。	ALT に京都の魅力が伝わるように、情報を比較・整理し、目的や条件に応じて理由や根拠を明確にしながら英語で表現している。	班での話し合いや AI からのアドバイスをもとに、自分の英文を見直し、より伝わる表現をめざして粘り強く取り組もうとしている。
本時の主眼	班での話し合いや AI から得たアドバイスをもとに、相手の目的や条件に応じて、より伝わる英文へ修正・改善することができる。【思考・判断・表現】	

<table>
<tr><td>準備</td><td colspan="4">□　タブレット（Google Gem）　　□　ワークシート　　□　電子黒板</td></tr>
<tr><td>過程</td><td>学習活動・内容</td><td>手立て（〇）評価（◇）</td><td>形態</td><td>配時</td></tr>
<tr><td rowspan="2">導入</td><td>1　学習課題を共有し、めあてを確認する。
・ティナ先生に京都の魅力について伝える紹介文を書く。</td><td>〇　本時の学習の流れを示し、紹介文の見直しから修正、改善までの活動の見通しをもたせる。</td><td>一斉</td><td>3</td></tr>
<tr><td colspan="4">【学習課題】
班での話し合いや生成 AI から得たアドバイスをもとに、目的や条件に応じた京都の紹介文を修正・改善する。

めあて　アドバイスを生かして、京都の紹介文をより伝わる文にしよう。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">展開</td><td>2　個人で紹介文を読み直し、文法面や内容面について付加修正をする。
・比較表現を用いているか
・記号やスペルに誤りはないか
・相手に京都の魅力が伝わるか
・選んだ理由や魅力が明確か　　など

生成 AI の活用①</td><td>〇　相手意識をもたせるために、自分の経験や願望を伝える分を付け加える必要性を示す。
〇　生徒が自ら考えて英文を表現できるように「和英辞典機能を備えた Gem」を活用させる。
〇　自分で修正点に気付くことができるよう、チェックシートを提示する。</td><td>個</td><td>10</td></tr>
<tr><td>3　紹介文を班で読み合い、相互評価を行う。
・比較表現が正しく使えているか
・ALT が京都に行きたいと思う内容か
・自分の経験や願望を伝える 1 文付け加えることができているか

話し合い活動</td><td>〇　紹介文をより伝わる内容に改善することができるよう、内容面や文法面について班でチェックシートを用いて相互評価をする場を設定する。</td><td>班</td><td>20</td></tr>
<tr><td>4　Gem に紹介文を入力し、AI からのアドバイスを参考にして修正・改善する。
・I think Fushimi Inari shrine is a good place to visit. It is older than other places. You can feel the history of Kyoto. Also, there are many red torii. You can take many pictures. I want to go there and take pictures with you.

生成 AI の活用②</td><td>〇　生徒が作成した紹介文に対し、文法や語彙の誤り、内容をよりよくすることができるように、ヒントやアドバイスを提示する「採点 Gem」を活用させる。
◇　班での話し合いや AI のアドバイスを比較・検討し、根拠を明確にして英文を修正・改善することができる。
（ワークシート・活動観察）</td><td>個</td><td>10</td></tr>
<tr><td>終末</td><td>5　本時の振り返りを行う。

振り返り（例）
Q,　紹介文で、ティナ先生が京都に行きたいと思えるような表現を 1 文書きましょう。
A,　I want to go there and take pictures with you.
Q,　班での話し合いや AI のアドバイスを受けて、自分の英文がどう改善されましたか。
A,　アドバイスのおかげで魅力が伝わる 1 文を付け加え、内容を充実させることができた。</td><td></td><td>個</td><td>7</td></tr>
</table>